



ケーヒン PD22 キャブレターキット 取扱説明書

商品番号：03 05 0109

適応車種：TT R90(5HN)

- ・この度は、弊社製品をお買い上げ頂きまして有り難うございます。使用の際には下記事項を遵守頂きますようお願い致します。
- ・取り付け前には、必ずキット内容をお確かめ下さい。万一お気付きの点がございましたら、お買い上げ頂いた販売店にご相談下さい。

イラスト、写真などの記載内容が本パーツと異なる場合がありますので、予めご了承下さい。

ご使用前に必ずお読み下さい

取扱説明書に書かれている指示を無視した使用により事故や損害が発生した場合、弊社は賠償の責を一切負いかねます。

当製品を取り付け使用し、当製品以外の部品に不具合が発生しても当製品以外の部品の保証は、どのような事柄でも一切負いかねます。

製品を加工等された場合や取り付けられた場合は、保証の対象にはなりません。

他社製品との組み合わせのお問い合わせはご遠慮下さい。

当製品は、上記適応車種の車両専用用品です。他の車両には取り付け出来ませんのでご注意ください。

補修部品に付きましては商品番号及び図中の番号にてお申し込み下さい。尚、不明な点がございましたらお買い求め販売店にお問い合わせ下さい。

当製品に付属しているエアフィルターはカバー付きで耐候性を向上させていますが、洗車や深い水溜り走行を保障出来る物ではありません。

洗車時等激しく水の掛かる時は、エアフィルターからエンジン内部に水が侵入しないように十分ご注意ください。

キャブレターは、天候・湿度・気温・標高や気圧等、自然現象及び車体差、キャブレターの個体差等によりセッティングを変更する必要があります。個々のエンジン、条件に合ったセッティングを行って下さい。

尚、キャブレターのセッティングは、次ページに記載している状態で出荷しております。

注意 この表示を無視した取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容及び物的損害が想定される内容を示しています。

- ・作業等を行う際は、必ず冷間時（エンジンおよびマフラーが冷えている時）に行ってください。（火傷の原因となります。）
- ・作業を行う際は、その作業に適した工具を用意して行って下さい。（部品の破損、ケガの原因となります。）
- ・規定トルクは、必ずトルクレンチを使用し、確実に作業を行ってください。（ボルトおよびナットの破損、脱落の原因となります。）
- ・製品およびフレームには、エッジや突起がある場合があります。作業時は、手を保護して作業を行ってください。（ケガの原因となります。）
- ・走行前は、必ず各部を点検し、ネジ部等の緩みが無いかを確認し緩みがあれば規定トルクで確実に増し締めを行ってください。（部品の脱落の原因となります。）

警告 この表示を無視した取り扱いをすると、人が死亡したり重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

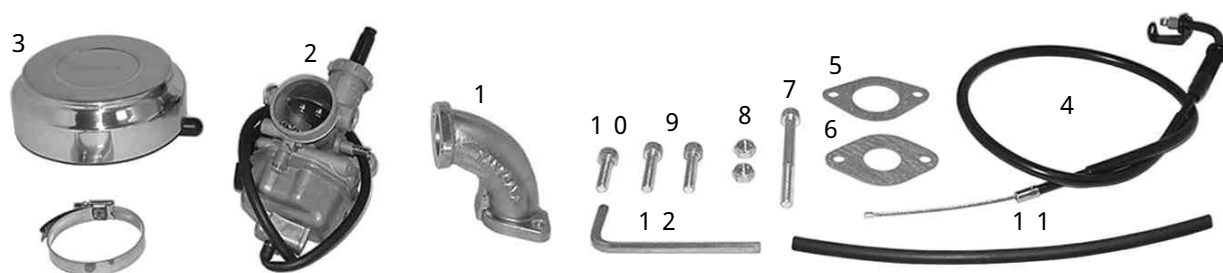
- ・走行中、異常が発生した場合は、直ちに車両を安全な場所に停止させ、走行を中止して下さい。（事故につながる恐れがあります。）
- ・作業を行う際は、水平な場所で車両を安定させ安全に作業を行ってください。（作業中に車両が倒れてケガをする恐れがあります。）
- ・点検、整備は、取扱説明書又は、サービスマニュアル等の点検方法、要領を守り、正しく行って下さい。（不適当な点検整備は、事故につながる恐れがあります。）
- ・点検、整備等を行った際、損傷部品が見つければ、その部品を再使用する事は避け損傷部品の交換を行ってください。（そのまま使用すると事故につながる恐れがあります。）
- ・製品梱包のビニール袋は、幼児の手の届かない所に保管するか、廃棄処分して下さい。（幼児がかぶったりすると、窒息の恐れがあります。）
- ・ガソリンは、非常に引火しやすい為、一切の火気を避け燃えやすい物が周りに無い事を確認して下さい。又、気化したガソリンの滞留は、爆発等の危険性がある為、通気の良い場所で作業を行ってください。

性能アップ、デザイン変更、コストアップ等で製品および価格は予告無く変更されます。予めご了承下さい。

クレームについては、材料および加工に欠陥があると認められた製品に対してのみ、お買い上げ後1ヶ月以内を限度として、修理又は交換させて頂きます。但し、正しい取り付けや、使用方法など守られていない場合は、この限りではありません。修理又は交換等にかかる一切の費用は対象となりません。

この取扱説明書は、当製品を破棄されるまで保管下さいます様お願い致します。

~ 商 品 内 容 ~



番号	部 品 名	個数	リペア品番	入数
1	インテークマニホールド (E 1)	1	1 7 1 1 4 5 H N T 0 0	1
2	キャブレター (P D 2 2)	1	0 3 0 5 0 0 9 8	1
3	ハイフローフィルター	1	0 3 0 1 1 1 3 8	1
4	スロットルケーブル	1	1 7 9 1 0 5 H N T 0 0	1
5	キャブレターガスケット	1	1 6 2 1 0 G E F T 0 1	1
6	インテークマニホールドガスケット	1	9 1 3 0 1 G B 4 T 0 0	1
7	ソケットキャップスクリュー 6×6.5	1	0 0 0 0 0 0 3 4	4
8	ロックナット 6mm	2	0 0 0 0 0 5 3 3	10
9	ソケットキャップスクリュー 6×2.5	2	0 0 0 0 0 0 8 9	10
10	ソケットキャップスクリュー 6×2.0	1	0 0 0 0 0 0 4 3	10
11	フュ - エルホース	1	0 0 0 3 0 2 0 3	1
12	六角レンチ 5mm	1		

キャブレターの初期セッティング

メインジェット	# 9 5
スロージェット	# 3 8
ジェットニードル	E 2 0 5 1 G
クリップポジション	4 段目
スロットルバルブカッターウェイ	7 4 B
エアスクリューオープニング	1 1 / 4 回 転 戻 し

リペアパーツは必ずリペア品番にてご発注下さい。品番発注でない場合、受注出来ない場合もあります。予めご了承下さい。尚、単品出荷出来ない部品もありますので、その場合はセット品番にてご注文下さいませお願い致します。

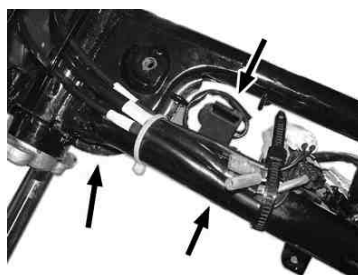
~ 取 り 付 け 要 領 ~

純正キャブレターの取り外し

1. 水平で安全な場所で、メンテナンススタンド等を用いて車両を安定させます。
2. サイドカバーを左右共取り外します。
3. フュ - エルコックを閉じて、キャブレターのドレンコックを開き、フロートチャンバー内のガソリンを受け皿に抜き取ってから、フュ - エルホースの接続を燃料タンク側から外しておきます。
4. シートを取り外し、フュ - エルタンクを車両から取り外します。
5. エアクリーナボックスとキャブレターを接続しているクランプを緩め、エアクリーナーボックス固定スクリューを外し、車両よりエアクリーナーボックスを取り外します。
6. スターターブランジャレバー (チョークレバー) を車両より取り外しておきます。
7. キャブレター本体から、キャブレタートップ・ヒーターリード線 2 本を外します。
8. キャブレター本体とインテークマニホールドを車両より取り外します。
9. シリンダーヘッドの吸気ポートに、塵や異物が入らないように、ウエス等で塞いでおきます。

車体側の取り付け準備

1. 純正スロットルケーブルの取り回しを控えてから、スロットルグリップキャップのスクリューを外し、純正スロットルケーブルを車体側より取り外します。
2. 本キットのスロットルケーブルを、スロットルグリップキャップに取り付け、先ほど控えた取り回しと同じ様に、車両に取り付けておきます。
3. フレームに付いている各種ステ - が、本キットのキャブレターやエアクリーナーと干渉する為、一部曲げ加工もしくは切除します。
 : 純正エアクリーナーボックスステ - を 9 0 度折り曲げるか、根元から切除する。
 : フレーム中央あたりの太い針金状のリードガイドをフレームに沿うように曲げるか、根元から切除する。
 : サーモスイッチステ - を上方 4 5 度程度に折り曲げる。
4. ヒーターリード線がフレームとショートしたりしない様に固定しておきます。

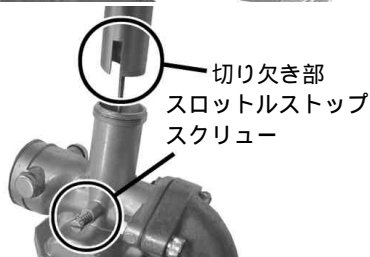


キャブレターの取り付け

1. 吸気ポートに詰めていたウエスを取り除き、本キットのインテークマニホールドとシリンダーヘッドの間に、インテークマニホールドガスケットを挟み、6×6.5と6×2.0のソケットキャップスクリューを用いてヘッドに取り付けます。

△注意：必ず規定トルクを守る事。
トルク：7N・m(0.7kgf・m)

2. キットのキャブレターのトップカバーを外して、スプリングとスロットルバルブを抜き取ります。
スロットルケーブルをキャブレターに付いているラバー製のケーブルキャップに通してから、インナーケーブルをキャブレターのトップカバーから通し、さらにスプリングを通して、スプリングを締めながらスロットルバルブに取り付けます。
3. スロットルケーブルをフレームの内側に通してから、スロットルバルブの切り欠き部をスロットルストップスクリューに合わせて、キャブレターに取り付けます。



4. キャブレターとインテークマニホールドの間に、キャブレターガスケットを挟み、6×2.5のソケットキャップスクリューと6mmロックナットを用いて取り付けます。

△注意：必ず規定トルクを守る事。
トルク：10N・m(1.0kgf・m)

5. キャブレター取り付け後、キャブレターのフロート室とシリンダーヘッドの間に隙間が有る事を確認して下さい。
万一、シリンダーヘッドに干渉している場合は、ガスケットの組み忘れが無いが確認した上で、キャブレター取り付けスクリューを一旦緩め、キャブレターを干渉しない位置に保持しながら、再度取り付けスクリューを締め込んで下さい。
6. 本キット付属のエアフィルターをキャブレターに取り付け、クランプバンドで固定します。
取り付けの際に、フレーム中央リブ部分とエアフィルターカバーが干渉する場合は、必要に応じてフレームの干渉部分を削り落として下さい。(必要以上に削り落とさない様に、確認しながら作業して下さい。)

調整及び外装の取り付け

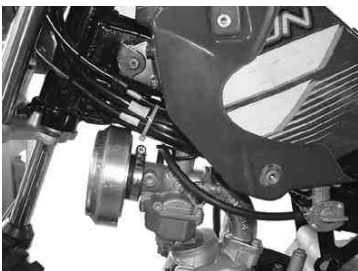
1. スロットルグリップ部で5mm程度の遊びが出来るように、スロットルケーブルのアジャスターを調整します。
調整後は、ラバー製のアジャスターカバーを、アジャスター部に被せて下さい。



2. スロットルを数回スナップさせ、引っかかりやスロットルバルブの全開状態を確認します。
ステアリングを左右一杯に切った状態でもスロットルに遊びがあることを確認して下さい。
3. フューエルタンクとシートを元通り車両に取り付け、スロットルケーブルをタンク左側ケーブルガイドに通して固定します。



4. キット付属のフューエルホースで、燃料タンクとキャブレターを接続し、フューエルコックを開いて各部からのガソリンの漏れの有無を確認します。
(コックを開いたまま長時間放置しないで下さい。)



5. チョークレバーを引き、エンジンを始動させます。
チョークレバーを徐々に戻し、回転がスムーズになるまで暖機運転を行い、チョークレバーを完全に戻します。
エンジン暖機後アイドリングしない場合や、アイドリング回転が高すぎる場合は、スロットルストップスクリューで調整します。
6. スロットルストップスクリューを調整した場合は、再度スロットルグリップの遊びを確認します。
7. 左右サイドカバーを元通り取り付けます。
8. 安全な場所で十分注意し、個々の車両に合ったセッティングを行って下さい。

エアフィルター

メンテナンス要領

本キットのフィルターはスポンジエレメントを採用することにより、容易に洗浄することが出来ます。エレメントが汚れた場合は、下記手順によりメンテナンスを行って下さい。
(市販のフィルタークリーナーやフィルターオイルといったケミカル類は使用しないで下さい。使用された場合、エレメントが劣化する可能性があります。)

1. 車体より取り外し、エレメント表面に付いた大きな塵等を取り除きます。
カバーのエッジ部で手を切ったりしないよう、手を保護しながら作業を行って下さい。
2. 市販の中性洗剤を薄めた洗浄液を作り、フィルターを洗浄液に浸し、エレメントを洗浄します。
(この時、エレメントを硬いブラシでこすったり、強くエレメントを揉んだりしないで下さい。エレメントが痛みます。)
3. 水道水等の流水で、エレメントの内側から水を注ぎ込み、エレメントの洗浄液をよくすすぎます。
4. 洗浄液をすすぎ終わったら、エレメントを乾かします。
乾燥させる際は、風通しの良い日陰で自然乾燥させて下さい。
圧縮空気をを用いる場合は、内側から弱い圧力で水気を吹き飛ばして下さい。

株式会社 SPECIAL PARTS 武川

〒584-0069 大阪府富田林市錦織東三丁目5番16号
TEL 0721 25 1357
FAX 0721-24-5059
お問い合わせ専用ダイヤル 0721 25 8857
URL http://www.takegawa.co.jp

キャブレターセッティング要領

- ・キャブレターがエンジンに適合していない時のエンジンに現れる不調の原因は、混合気が濃すぎるか薄すぎるかの2つの原因に絞られます。
- ・エンジンに現れる不調の現象は次の通りです。

混合気が濃すぎる時	混合気が薄すぎる時
<ul style="list-style-type: none"> ・爆発音が重い感じで断続する。 ・チョークを作動すると、より調子が悪くなる。 ・エンジンが暖機すると調子が悪くなる。 ・クリーナーを外すと調子が良くなる。 ・排気ガスが濃い。(黒い) ・プラグが黒くくすぶる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・エンジンがオーバーヒート気味になる。 ・チョークを作動すると、調子が良くなる。 ・加速が悪い。(息付きをおこす) ・回転変動があり、力がない。 ・プラグが白く焼ける。

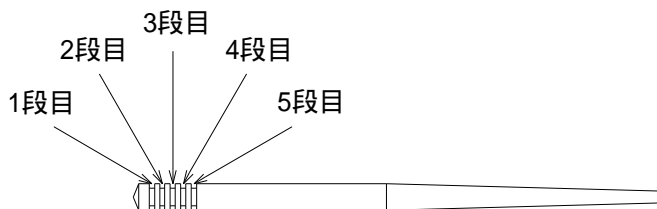
キャブレターのセッティングは暖機後に行い、走行確認を行って下さい。又、プラグは適正な熱価の物をご使用下さい。エンジン回転後、スロットル開度等により、どの範囲でエンジンが不調になるかを考慮し、下記の要領でセッティングして下さい。

ジェットニードル (スロットル開度 1 / 4 3 / 4)

加速時、スロットルに回転がついて来るか、来ないか

- ・息付きをする場合、濃くして下さい。
- ・回転の上がり重く、排気ガスが黒い場合は薄くして下さい。

この開度での混合比は、Eリングを入れる溝の段数で調整出来ます。Eリング位置が1段目から5段目へ下がるにつれ混合気は濃くなります。



メインジェット (スロットル開度 3 / 4 4 / 4)

この開度での混合比は、ジェットの番数を変えることにより調整出来ます。番数を上げると混合気が濃くなります。仕様等を考慮の上、最高回転数(最高速度)の得られる物を選んで下さい。

パイロットジェット (調整前にはまずエアスクリューを調整して下さい。)

- ・エアスクリューの戻し量 3 .0 回転以上の場合、パイロットジェットを小さくして下さい。
- ・エアスクリューが全閉になる場合は、パイロットジェットを大きくして下さい。
- パイロットジェットはアイドルリングから低速運転時に、エンジン回転数がスムーズに立ち上がるか否かを確認します。
- ・回転上昇に谷が出来る場合、パイロットジェットが小さ過ぎます。(アイドル回転時)
- ・排気濃く排気音が重い場合、パイロットジェットが大き過ぎます。(アイドル回転時)
- ・パイロットジェット交換時には、エアスクリューの再調整が必要です。

エアスクリュー

エアスクリューはスロー系の空気流量を調整します。(アイドルリング時)

- ・エアスクリューを右に回す 混合気が濃くなる。
- ・エアスクリューを左に回す 混合気が薄くなる。

標準戻し回転数(1.5回転)に合わせ、左右に1/4 1/2回転ずつ回しエンジン回転数が最も高くなる位置に調整します。アイドルストップスクリューで安定したアイドル回転まで下げ、もう一度エアスクリューで最も回転数が高くなる位置に調整します。

気圧、気温、湿度によるセッティングへの影響

- ・高地等で気圧が下がると空気密度が下がり、キャブレターへ吸入される空気量が減少します。この為、低地で調整されたキャブレターは混合気が濃くなります。
- ・非常に気温の低い天候下では、空気密度が上がる為、キャブレターの混合気は薄くなります。
- ・雨天の場合は湿度が上がる為、空気密度が下がりキャブレターの混合気は濃くなります。

性能アップ、デザイン変更、コストアップ等で商品および価格は予告無く変更されます。あらかじめご了承下さい。

クレームについては、材料および加工に欠陥があると認められた商品に対してのみ、お買い上げ後1ヶ月以内を限度として、修理又は交換させて頂きます。但し、正しい取り付けや、使用方法など守られていない場合は、この限りではありません。修理又は交換等にかかる一切の費用は対象となりません。

この取扱説明書は、本商品を破棄されるまで保管下さいませお願い致します。

株式会社 **SPECIAL PARTS 武川** 〒584-0069 大阪府富田林市錦織東三丁目5番16号
 TEL 0721-25-1357 FAX 0721-24-5059 URL <http://www.takegawa.co.jp>
 お問い合わせ専用ダイヤル 0721 25 8857